

## 理事長室から

木下 統晴



## て・あーて TE・ARTE

午前4時ラジオ深夜便の「明日への言葉」を録音し、毎日聞いています。5月14日の放送は、日本赤十字看護大学名誉教授の川嶋みどり先生でした。看護界の重鎮で、日本でも数少ないナイチンゲール記章を受賞された93歳の現役看護師の先生です。

ラジオの声も若々しく「て・あーてが、おしえてくれること」というお話でした。

私は、胃カメラ健診では麻酔をしませんので、喉を通るときは、苦しくて「おえっ」となります。一昨年までは涙を流しながら我慢して何とかやり過ごしてきましたが、去年は、ちょっと違いました。「おえっ」と来た時、そばにいらした看護師さんが「大丈夫、大丈夫、もう少しですよ」と言って私の背中を優しくさすって頂いたその瞬間に「おえっ」はなくなりました。本当に瞬間です。胃カメラがスーッと入っていったのです。緊張がとれ、力が抜けるのが分かりました。ラジオを聴いていて、そうか、あれが「て・あーて」だったのかと思いました。転んだ子供に、「痛い痛い飛んでいけ！」などと言います。泣いている娘を妻が優しく抱きしめました。妻が咄嗟に娘を抱きしめた時は、

驚きました。母親の温かさ、柔らかさには勝てません。これも「て・あーて」。

また、子供の頃は、病気すると近所のお医者さんにすぐに往診をお願いしていました。聴診器をあて、触診され、打診されて診断されます。それだけで、患者も家族も安心します。患者さんとお医者さんの距離は、凄く近かったように思います。手洗い用の洗面器がキラキラ光っていた。そんな思い出です。

川嶋先生の講演では、2011年3月11日の東日本大震災の津波にあわれた低体温症の高齢者の方を助けたのは看護学生さんの手です。寒空に顫えながら24時間、ずっと患者さんの全身を素手でこすり続けて、体温を回復させたのだそうです。て・あーては、凄いです。<東医大誌 73(4): 321-322, 2015から一部引用>

なお、手当という用語と残業手当というようにお金の意味が強いので、「て・あーて、TE・ARTE」として、心とわざの普及に務められているのだそうです。ARTEはイタリア語の芸術、技術です。先生の近著=写真=も、お知らせします。先輩から多くを学びましょう。



## 虐待等の不適切養育の治療を見据えた脳内の小胞体ストレス障害の機能解析

## 脳組織、遺伝子から虐待のメカニズム探る

わが国では児童虐待が急増しており、心身の健康被害は大きな問題になっています。加害者に対するメンタルケアや社会的援助は進んでいますが、虐待被害者が自身の子にも虐待をしてしまう「世代間連鎖」の発生率も高いことから、虐待を直接的に予防または治療する方法が必要とされています。近年は育児行動の神経回路が解明されつつありますが、虐待を改善するための有効な治療法は存在しないのが実情です。

我々は、細胞内の恒常性（品質管理）を障害されたマウスが強い虐待傾向を示

すことを見出しました。この発見をきっかけに学内P&Pの支援を頂けたことで研究の土壌が整い、現在は6大学11講座の先生方との共同研究を進めています。今回の科研費獲得を新たな起点として、虐待マウスの脳組織や遺伝子などの網羅的な解析を加速させ、虐待を引き起こすメカニズムを解明することで、新たな治療標的の候補や予防法の開発につなげたいと思っています。より良い未来のため、皆さま方のご協力やご助言を頂けると幸いです。今後ともよろしく願いいたします。

科研費 ★★  
私の研究基盤研究 (B)  
2024-26年

リハビリテーション学専攻

田中 貴士 准教授



昨年度の交換留学プログラムで、交換研修のために本学を訪れた韓国・大邱保健大学の学生7人と、本学の韓国文化研究クラブのメンバーとの交流会が5月20日（月）、ZOOMを通じて行われました。申敏哲教授による新たな取り組みで、語学力向上や、学生同士の親睦を深めることを目的としています。

この日は、画面越しに終始和やかな雰囲気でおこなわれ、お互いに自己紹介や質問をしながら交流と理解を深めていました。申教授は、「初めは自信がなくても相手の言語でことばを投げかけて、通じているかどうかを確認することが大事。恥ずかしいのは、できないのではなく、頑張らないことだと思う。本学には韓国語を学びたい学生も多いが、韓国語講座が無い。韓国語を学びたい学生の為にクラブ活動や特別講義等を通して対応したい」と意気込んでいました。

交流会は、今後も定期的実施される予定で、大学間交換留学プログラムに参加する大邱保健大学の学生と本学の学生にも参加してもらい、親交を深めるということです。また、今年12月には、

韓国語に興味を持って学んでいる学生たちによる「第15回話してみよう韓国語熊本大会」が、本学で開催されます。申教授は「皆さんの参加と応援をお願いしたい」と話していました。（入試・広報課）



ZOOMを使って大邱保健大の学生たちと交流する韓国文化研究クラブのメンバーたち



今週の1枚

「イベントの数を増やして」「大学をもっと長く開けてほしい」。学友会が本学レストランの2階に設置した目安箱には、会にあてた質問や要望が寄せられています。いずれも、学生生活を快適かつ充実したものになりたいという学生たちの真摯な声ばかりです。実際に学生生活に反映された要望もあるそうです。回答は毎年5月に開催される学友会総会で報告されています。（入試・広報課）

寄稿

## 鶴屋バスケット部の21年

健康・スポーツ教育研究センター

枝尾 久美講師



苦楽を共にし重ねた栄冠が自信に

この3月末で、21年間務めた鶴屋百貨店バスケットボール部のアスレティックトレーナーを引退しました。引退理由は、数年前より感じていた、選手に動きのデモンストレーションを示すことができなくなったことと、大学業務との併行で時間的に難しくなったことからです。チームとのなれそめは、「地元のチームをサポートしたい」と帰郷し、国体の女子バスケの帯同をしたのがきっかけです。当初は、怪我人のアスレティックリハビリテーションを主に行いました。全国大会で万年2～3位だったため、「3年連続全国優勝」を目標に、トーナメント戦で戦い抜くための体力強化をはかるためにフィジカルトレーニングの指導も行ようになりました。

初めての優勝は2015年です。決勝で1点ビハインドで残り5秒のマイボールでのスローインから、残り2秒でジャンプシュートインで逆転しました。優勝した瞬間、みんながコートに飛び出していった大喜びした光景が、今も鮮やかに思い出されます。その後チームは全日本実業団大会優勝5回、国体優勝1回を果たしました。優勝するには何が必要かを選手と話し合いながらトレーニングし、結果が出たことは、私にとっても大きな自信となりました。

3月の最終戦を終えたときの気持ちは、「ほっとした」でした。チームを持つと、休みの日、お正月でも、怪我が起きると連絡が入り対応します。解放感から、でしょうね。これまで、トレーニングやケアを任せていただいた鶴屋バスケット部には感謝の気持ちでいっぱいです。今後は私の経験を基に、トレーナーを目指す学生の指導に尽力したいと思います。

質問、要望受け付けます！

## 11日、第1回測定会



阿蘇中央高校生に当日の測定について指導をする本学学生たち

阿蘇市の阿蘇中央高校で実施される体力測定会（阿蘇プロジェクト）で測定的主力となる同校の2年生68人が5月28日（火）、本学アリーナでリハビリテーション学科の学生たちの指導を受けながら測定の方法などを学びました。

「阿蘇プロジェクト」は、阿蘇市・阿蘇中央高校との包括連携協定に基づいた取り組みです。阿蘇地域に住む高齢者約50人を対象に運動、栄養、社会参加の3つの領域について調査を行います。体力測定会は年2回実施。本年度第1回の測定会は6月11日（火）に予定され、リハビリテーション学科3専攻の学生44人も高校生とともに測定に当たります。

プロジェクトリーダーを務める松原慶吾准教授（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻）は「高校生と大学生が協力することで、阿蘇市に住む人々の健康寿命の延伸に貢献したい」と、プロジェクトへの意気込みを語っていました。（入試・広報課）

## インフォメーション

## 週間行事予定（6月4日～6月10日）

6/1（土）～6/15（土）	コンケン大学（タイ）交換留学生の受け入れ ※6/14（金）さよならパーティー&プレゼンテーションが12:10～、1204・1205会議室で開催されます。
6/4（火）、6（木）	令和6年度 新任教員によるお披露目講演会及び昇任教授による講演会 令和5年度 大学教育改革推進プログラム（学長裁量経費）成果報告会 ※6/4（火）15:00～、3109M講義室、6/6（木）16:00～、3110M講義室
6/5（水）	大学訪問 宮崎県立飯野高校
6/9（日）	進学ガイダンスセミナー（開催場所：熊本学園大学）